

高野川の総合的な治水対策 工期を5年短縮！

増える水害の対策に府・市が協同で事業を推進

近年、気温の上昇などの影響で大規模な水害が頻繁に発生しています。市内でも、平成16年台風23号の時には、西舞鶴を流れる高野川流域で洪水と高潮で約800戸もの甚大な浸水被害が発生。同様に平成25、29、30年にも浸水被害が発生しています。市では、京都府と連携して高野川の総合的な治水対策を進めています。 《下水道整備課》

そもそもどうして治水は府と市が一緒に行うの？

◆「水がつく」理由はさまざま

一般的に「水がつく」と、まとめて言われている浸水にも、さまざまな原因が存在します。

- ◆内水…雨水を川に排水したいが増水などで川に水が排水できない状態
- ◆逆流…増水した川の水が排水管を逆流して平地にあふれ出す状態
- ◆越水…川の水が護岸を越えて川からあふれること



▲高野川流域でも場所ごとに浸水の原因はさまざま

◆「川」と「排水」が原因だから府と市の協力が不可欠

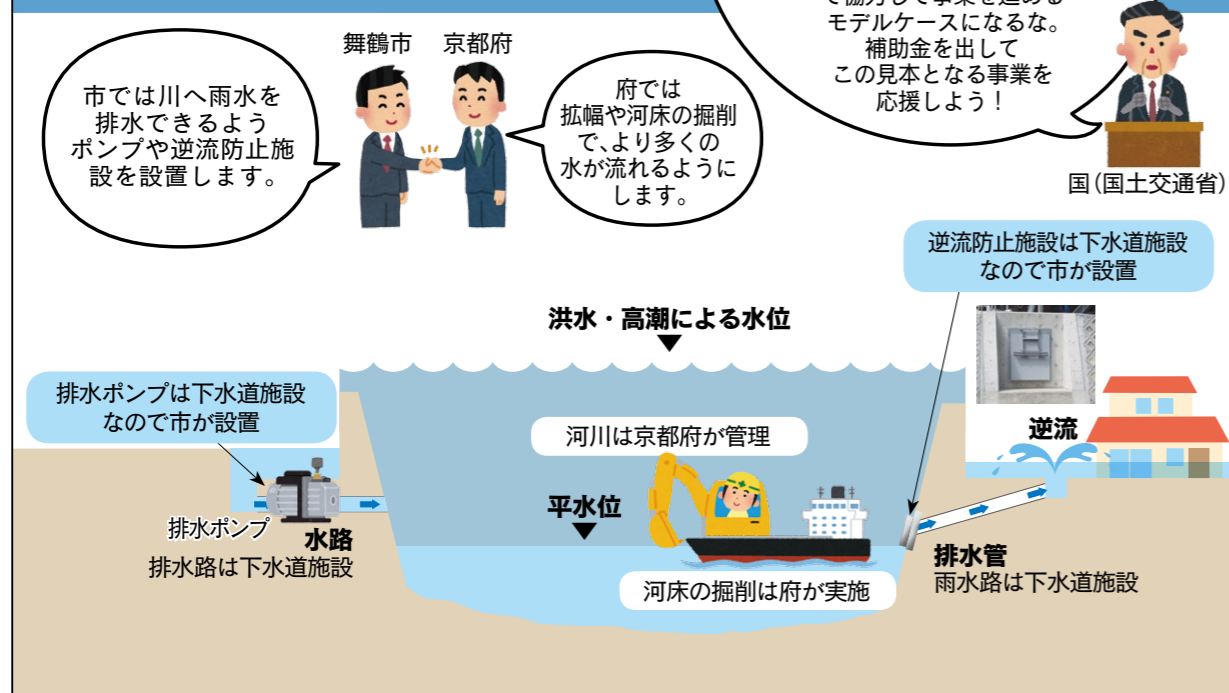
浸水は、河床を掘って深くすれば全て解決するわけではありません。陸地に降った雨は、側溝や水路などを通して排水施設などから川へ排出されます。これらは「下水道施設」として、市が整備

しており、一方で河川（堤防の端から対岸の堤防の端まで）は、二級河川である高野川の場合、府が整備・管理しています。このため、府が高野川の拡幅をしたり河床を掘るだけでなく、同時に市が下水道施設で逆流防止施設や排水ポンプを設置しないと水害は防げません。

◆全国的な治水対策のモデルケースに

このように、国や都道府県、市町村がそれぞれの管理する施設の工事を協力して進める事業で、全国のモデルとして、高野川の総合的な治水対策事業が国の「事業間連携事業」に選ばれ、事業費の補助を受けられることが決まりました。これによって、10年を見込んでいた第1期区間（610m、右地図参照）の工期が、5年に短縮できることになりました。地域の皆さんの安全・安心を守ると同時に、全国の治水対策の見本となるよう、府と協力して高野川の治水対策を進めていきます。

府と市が協力して治水対策を実施



◆高野川治水対策の歩み

【平成28年度】「総合的な治水対策協議会」を設立。高野川河口から堀上橋までの第1期区間（610m）の河川整備と内水対策を概ね10年で、また、堀上橋から出雲谷橋までの第2期区間を次の概ね5年で実施することとしました。

【平成29年度】高野川河川整備計画を策定し、内水対策についてもポンプ設備などの都市計画決定手続きなどを実施。

【平成30年度】高野川河川護岸の設計と、内水対策で大手ポンプ場の実施設計を行い、用地買収を実施。

◆今年度の取り組み

府の高野川整備事業は、下流から順次、河床掘削工事、護岸工事に着手。市では、内水対策のための大手ポンプ場の建設工事や、左岸側のポンプ場の実施設計を行います。

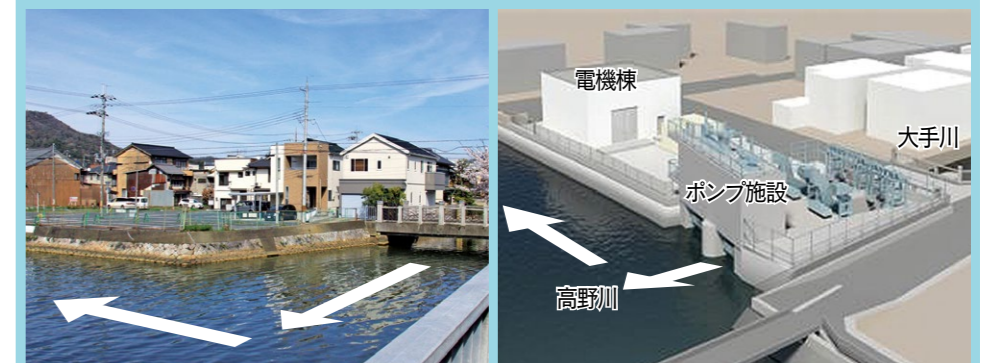
一日でも早い完成を目指して、引き続き京都府と連携し、地元の皆さんのご理解とご協力を得て事業を進めていきます。



▲水害の様子(平成29年、真名井商店街)



▲水害の様子(平成30年、堀上)



▲支流(大手川)の水をポンプで高野川へ排水する(左は予定地、右はイメージ図)

◆第1期区間整備で床上浸水を大幅に軽減

今回工期が短縮された第1期区間の整備が完了すると、平成16年台風23号と同規模の雨に対して床上浸水が概ね解消し、床下浸水も大きく軽減できる見込みです。

	発生日	雨量	潮位(TP)	被害概要(戸)
平成16年	10月20日	時間雨量 36 ^{mm} /h 総雨量 326 ^{mm}	76 ^{cm}	床上浸水 156 床下浸水 642
	平成25年	9月16日	77 ^{cm}	床上浸水 185 床下浸水 161
平成29年	10月22日	時間雨量 41 ^{mm} /h 総雨量 337 ^{mm}	66 ^{cm}	床上浸水 104 床下浸水 257
	平成30年	7月7日	47 ^{cm}	床上浸水 157 床下浸水 411